

《編集・発行》

相模原市農業委員会
相模原市中央区中央2丁目11番15号
Tel 042-769-8292 (直通)

農業のうごき



阿部会長(右から4人目)から森副市長へ意見書を提出。

令和5年度 農地等の利用の最適化の推進に関する意見を提出

11月11日に「令和5年度相模原市農地等の利用の最適化の推進に関する意見」を、農業委員会の阿部会長から森副市長へ手渡しました。

この意見は、農業者の皆様から農業委員や農地利用最適化推進委員へ寄せられた意見をまとめたもので、農地等の利用の最適化の推進をより効率的・効果的に図っていくため、「都市農業の推進について」「遊休農地の発生防止・解消について」「担い手への農地利用の集積・集約化について」「新規参入の促進について」の4項目について取りまとめました。

農地再生モデル事業を実施しました

農業委員会では、農業者の高齢化や農業の担い手不足等により放置されている農地を 農業委員、農地利用最適化推進委員が除草や耕作することにより、農地を再生する「農地再生モデル事業」を平成23年度から行っています。

今年度の活動については、本庁地域では中央区田名の農地で除草剤の散布等を実施するとともに、津久井地域では所有者の高齢化により耕作できなくなった緑区鳥屋の農地で津久井在来大豆を栽培しました。

鳥屋のモデル事業地では、6月下旬の種まきに向けた農地の整備をはじめ、電気柵の設置や7～8月の除草、害虫駆除等を経て、11月中旬に約110kgの大豆を収穫することができました。

こうして再生された農地は、持続した農地の保全とともに、新たな担い手への引継ぎ、本市の農業の発展につなげていきます。



委員による種まき



鳥獣被害対策のための電気柵設置



シカによる被害もありましたが無事に収穫

農業委員会のPR活動を行いました

11月19日に開催された「あぐりんずつくい9周年お客様感謝祭」において、農業委員会でブースを出展し、パネル展示による農業委員会の活動紹介や市内の農業に関するクイズを実施しました。

当日は、約200名の方が農業委員会のブースを訪れ、クイズに解答した方に農業委員会オリジナルのエコバッグをプレゼントしました。ブースを訪れてくださった皆様、ありがとうございました。

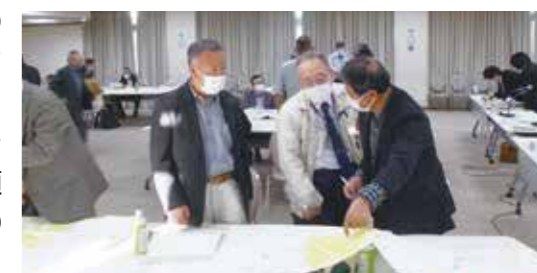
これからも農業委員会の活動にご協力をお願いします。



農業クイズ参加者に説明する農業委員

遊休農地の発生防止・解消に向けた取組へのご協力について

農業委員会では、法令に基づき、毎年市内の全農地の利用状況を把握するため、農地の利用状況調査を実施しており、「遊休農地」と判定された農地について、所有者に働きかけ、遊休農地の発生防止・解消をするための取組を行っています。該当する方には、農業委員、農地利用最適化推進委員からご連絡させていただくことがありますので、ご協力くださいますよう、お願いします。



候補地の選定の話合いの様子

潤水都市さがみはら 第58回相模原市農業まつり 農畜産物共進会優秀賞受賞者について

市内産農産物を品評する「農畜産物共進会」が開催され、各部門で次の方々表彰されました。

| 区分 | 共進会対象区分 | 受賞者名(敬称略) | 区分 | 共進会対象区分 | 受賞者名(敬称略) |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 立毛 | 施設トマトの部 | 小 俣 章 洋 | 生産物 | 施設トマトの部 | 小 林 康 史 |
| | 梨 の 部 | 柿 澤 貞 夫 | | 施設キュウリの部 | 小 磯 真 広 |
| | ぶ ど う の 部 | 三 澤 勝 重 | | 梨 の 部 | 柿 澤 ツギエ |
| | 露地ナスの部 | 小 俣 武 士 | | ぶ ど う の 部 | 中 里 正 人 |
| | ブルーベリーの部 | 菊地原 恒 市 | | 柿 の 部 | 柿 澤 康 子 |
| | 露地トマトの部 | 小 星 力 男 | | シクラメンの部 | 八 木 垂 魅 |
| | 柿 の 部 | 柿 澤 貞 夫 | | パンジーの部 | 八 木 垂 魅 |
| | 露地キュウリの部 | 佐 藤 晴 信 | | 津久井在来大豆の部 | ※1月頃開催予定 |
| 坪堀り | やまといもの部 | 佐 藤 寛 | ブルーベリーの部 | 小 川 旬 子 | |
| | | 佐 藤 宏 一 | キウイフルーツの部 | 長谷川 辰 夫 | |
| | 甘 藷 の 部 | 松 本 輝 久 | 畜産物 | 鶏 卵 の 部 | 有限会社田中養鶏場 |

令和4年度 相模原市自治功労者表彰 市川忠孝前農業委員が表彰されました

11月20日市役所において、表彰受賞者に対して表彰状等の贈呈が行われました。農業委員として15年にわたり本市の農業振興に貢献された功労を称えられ、市川忠孝前農業委員(津久井地区)が本村市長から表彰されました。



表彰状を手に喜ぶ市川前農業委員

令和4年度 神奈川県農業会議会長表彰受賞者について

12月27日に市役所において、農業委員、農地利用最適化推進委員として長きにわたり地域の農業振興に貢献された2名の方が持田県農業会議会長から表彰されました。

＜農業委員及び農地利用最適化推進委員＞

高橋 三行 農業委員(中央区担当)

井上 勝 前農地利用最適化推進委員(津久井地区担当)



表彰状を手に喜ぶ高橋農業委員(左)と井上前農地利用最適化推進委員(右)

令和5年度 農地等の利用の最適化の推進に関する意見の概要

※意見の全文については市ホームページをご覧ください。

1 都市農業の推進について

- 地産地消の推進による販路拡大について
農畜産物等のブランド化など販路拡大につながる地産地消を推進するための取組の充実や、子ども達が食への理解・関心を深め、農業の大切さを学べる取組の拡充・支援、小規模農家の販路確保への支援策を進めること。
- 農業生産コストの増加等への対応について
農業生産コストの増加に対応する給付金の支給をはじめ、市が活用できる国や県の補助事業への迅速な対応に取り組むこと。
- 農業の脱炭素化に向けた環境配慮型農業の推進について
県及び農協等の関係機関と連携して、国の「みどりの食料システム戦略」についての取組を進めるとともに、消費者に対して、制度の理解を深める情報提供を行うこと。
- 総合的な窓口の設置について
他市で実施している「行政、農業委員会、農協等の関係機関で構成する窓口の一元化」を例に、総合的な窓口の設置について、市が主導的に進めること。

2 遊休農地の発生防止・解消について

- 遊休農地については、農業者の高齢化や担い手不足等のほか、鳥獣被害による営農意欲の減退など様々な要因により発生している。その解消を図るため、次の施策を行うこと。
- 遊休農地の発生防止・解消に向けた取組への支援や、相続等により農業を継続できない場合の相談窓口を設置し、サポート体制の構築を検討すること。
- 鳥獣被害による営農意欲の減退に歯止めをかけるために津久井地域だけでなく旧市域も含めた被害防止に向けた支援・対策をすること。特に、電気柵設置補助金の拡充や箱ワナ等で捕獲した小型鳥獣の処分に係る支援を図ること。また、全国での先進的な取組事例を調査し、各地域の対策に生かしていくこと。

3 担い手への農地利用の集積・集約化について

- 農地の有効利用を図り、担い手の確保と農業経営の規模拡大及び農地の集団化を進めるため、次の施策を行うこと。
- 「相模原農業振興地域整備計画」の農用地利用計画に基づき、それぞれの地区の特性に適した基盤整備等を進めること。特に、大島諏訪森下地域の水田地帯、大沢地区、上溝地区、小倉地区、金原地区の5地区の農用地については重点的に進めること。
- 藤野地区の大日野原圃場への進入路について、安全対策を検討すること。また、進入路整備に係る情報を地域や関係機関に提供すること。
- 地域農業の将来像を描く、実質化した「人・農地プラン」を基に、地域計画(目標地図)を実効性の高いものとするため、完成までの作業内容やスケジュールを確認した上で、関係機関と連携しながら進めていくこと。

4 新規参入の促進について

- 農業者の高齢化や担い手・後継者不足による農業者の減少に歯止めをかけるため、将来にわたって農業を支えていく新規参入者に対する総合的な支援として、次の施策を行うこと。
- 農協やかながわ農業アカデミー等と連携しながら、市内に新規参入者を増やすための取組を推進すること。
- 新規参入希望者に対する情報提供や就農前の研修に係る補助制度の活用等について検討すること。
- 参入して間もない農業者への農業経営・技術向上をはじめ、農機具や作業場の確保に係る相談などに対する支援を充実すること。